保険担当者と交流会

東京代協城北支部　約80名が参集

東京代協城北支部（清水健二支部長）は昨年12月13日、「第13回保険会社担当者との交流会in城北」をIKE・Biz（東京都豊島区）で4年ぶりに完全リアルで開催した。同交流会は2011年から実施されているもので、取扱い保険会社の垣根を越えて、保険代理店と保険会社の担当者が交流できる貴重な機会となっている。今回は損保系生保会社3社から各2人が登壇し、忌憚ない意見を披露。会場には保険代理店と保険会社から約80人が会場に参集した。

損保各社6担当者が登壇

パネルディスカッションに登壇したのは、SOMPOひまわり生命の岡村智之氏と原田圭亮氏、東京海上日動あんしん生命の阿部義信氏と三成香織里氏、三井住友海上あいおい生命の古川拓史氏と平本萌夏氏の6氏。自己紹介に続き、他社の医療保険に加入しているか等の○×問題や、「締切日前日、予算達成まであと少し。最後の秘策は？」「事務所を見て良い代理店だと思うポイントは？」「代理店と保険会社がこれからも共存共栄するために、大切にしていきたいことは？」等の質問に対して、フリップボードに記入したものを披露しながらそれぞれの考えや思いを述べた。

予算達成の秘策では、多くが代理店に頼ると回答。信頼関係がなければ難しいため、普段からの代理店とのコミュニケーション等の重要性にも言及した。また、良い代理店だと思うポイントについては、「全員が挨拶で迎えてくれる」「来客への挨拶が徹底されている」「一体感と笑顔」等、明るい事務所であることがポイントになった。「整理整頓され清潔感ある事務所」という回答では、顧客に安心感を与えられるという見解が示された。

保険会社と代理店の今後については、情報提供の重要性や「苦楽を分かち合い寄り添いの気持ちを大切にすること、「感恩報謝」「お客様をお守りする信念」「代理店のビジョンに寄り添って支援」していきたい、同じ方向を見るためにも「定期的な目線合わせ」をしていきたいという声もあった。

パネルディスカッション終了後には懇親会も催され、保険代理店と保険会社社員が親交を深めた。

普段からのコミュニケーションが重要